

文化財を訪ねる かみのかわ山さな旅

鬼怒川沿いに残る歴史遺産の宝庫（西木代・東汗）

上三川町の北東部に位置する西木代と東汗地区は、多くの貴重な文化財が残る地域です。今月の出発地点は、東汗の満願寺です。満願寺の入り口にそびえる大きな楼門は、江戸時代の初めの建物で、町内に残る最も古い木造建築です。楼門をくぐると目の前に現れる薬師堂も、江戸時代中ごろに建てられた建物です。満願寺に現存する建物は、いずれも江戸時代のもですが、ここにある多くの仏像は、平安時代から鎌倉時代にかけての重要なものです。

平安時代の末に製作された仏像としては、県指定文化財の阿弥陀如来坐像、町指定文化財で秘仏の薬師如来坐像、不動明王像、天部像があります。阿弥陀如来坐像は、京都府宇治市にある平等院鳳凰堂の阿弥陀像に代表される定朝様（じょうちょうよう）の特徴を持つ非常に美しい仏像です。日光・月光菩薩像は、頭髪や衣文の特徴などから、鎌倉時代の特徴を持っています。このように平安時代から鎌倉時代にかけての仏像が多くある満願寺は、当時とても大きなお寺であったことを物語っています。この他にも、町内最大級の江戸時代の絵馬や、栃木県名木百選に選ばれた、樹齢約500年数えるカヤの木など、多くの文化財があります。

満願寺を出て、西木代地区に向かってみましょう。高麗神社がある塚は、高麗神社古墳という6世紀頃の前方後円墳です。長い時間が過ぎて、形が大きく変わっていますが、後円部の直径が約37mということが発掘調査の結果わかっています。高麗神社の南にある薬師堂は、江戸時代中期に建てられた三間堂で、人々の信仰を集めました。またここにある石幢（せきどう）は、石灯笼のような形をしている石塔の一種で、仏像が刻まれており、町内でも数少ない貴重なものです。

北関東自動車道の工事などで、この地域の景観も大きく変わっています。古墳時代から江戸時代に至る貴重な文化財に触れてみてはいかがでしょう。きつと新しい発見があると思います。



たね俳句

麦秋は機械に追われ死語となり

浜野 正男

親の来るまでは沈黙燕の子

大八木喜重郎

パノラマのごと展けたり植え田青

柳田 石村

小さき者受難続きやつゆ兆す

伊沢 静香

雷雨激し一夜に村の大堰倒し

蓬田 四方

あやめ咲く五橋巡りの竿さばき

濱野マス子

踏んばって素振の練習玉の汗

阿部 信子

全快を言祝ぐ如く百千鳥

野沢 花枝

更衣カラカラ鳴す素足下駄

上野キミエ

一村の水は豊かに遠蛙

石崎 節子

